福山城は1622年に福山藩の初代藩主水野勝成が築いた城で、幕府に築城を報告したとされる8月28日が築城400年の記念日。天守は昭和20年に空襲で焼失し、市民の寄付で昭和41年に再建された。

福山城築城400年イベントでも活躍

京セラのプロ向け電動工具

今年8月、築城400年を迎えた福山市のシンボル、福山城。その関連イベントを手がけた地元3社の職人たちと、切断や穴開け、ネジ締めや研磨まで、現場で活躍した京セラ電動工具の模様をリポートする。

写真／藪崎 大　文／モノ・マガジン編集部

過去と現在、地元の伝統産業をリスペクトした作品と装飾

今年9月中旬、一面を黒い鉄板で覆った福山城の北側を一望する北の丸広場に、一辺が2mを超す立方体の木製アートが出現した。すべての面には地元高校の生徒らにより、さまざまなメッセージが描かれている。また、広場の一角には木のデッキと竹に囲われた休憩所、広場に通じる坂道には無数の鉄板風鈴、その入り口には提灯櫓（ちょうちんやぐら）と、いたる場所に特別な作品や装飾が施された。これらの製造を担当したのが、広島県三原で木製家具の設計・製造を行うSAKURASAKU（サクラサク）のメンバーだ。

では、ここに至る経緯を少し振り返ってみよう。

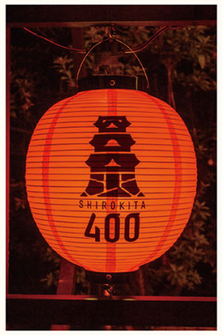
広島県福山市のシンボルとして、江戸時代から町を見守ってきた福山城。この築城400年目にあたる今年、市は記念事業実施委員会を設けた。目玉となるのは、築城当時を復元した北側城壁を覆う鉄板張り。また、これまであまり注目されてこなかったお城の北側の回遊性向上を目的としたイベントも企画された。この依頼を受けたSAKURASAKUの代表、植原健司さんが思い描いたイメージは、400年前と現代を繋げること。そこに福山の伝統的な産業を活かすことだった。たとえば、冒頭の木製アート。築城当時にはすでに文化として定着していた書道の筆を使って、400年後の色で

一辺2.4mという木製アート。天面を含めすべての面に広島県立福山明王台高等学校の美術部と書道部の生徒たちが英語や中国語、ハングルなどで思い思いのメッセージを描いた。

北の丸広場に続く坂道は、2枚の鉄板と鉄釘による風鈴によって彩られた。金属特有の乾いた音色が心地よい。

「日本人には間の文化があり、間の取り方を知っている。そこに福山の“ま”を引っかけてつくったのが城北の間です」と植原さん。壁はなく、竹で四方を囲い、床は造船所から譲られたという甲板材が使われた。

築城イベントを彩った作品の数々……



北の丸広場に通じる坂道の入り口に掲げられた提灯櫓。植原さんのアイデアで、提灯にはお城のシルエットと「SHIROKITA400」の文字が描かれた。夜は明かりが灯り、美しさはライトアップされた福山城にも負けていない。

SAKURASAKU代表の植原健司さん（右）とスギモリ代表の杉森裕樹さん。「提灯があると日本のお祭りみたいでテンションが上がるじゃないですか」と植原さん。

材料の切り出しから研磨に至るまで、彼らが手にしたのは京セラのプロ向け電動工具。その活躍ぶりは次ページで！

ある蛍光色をペイントする――。これは植原さんの考える、過去と現代の結びつきに他ならない。また、坂道に飾られた鉄板風鈴も船釘や錨の一大生産地として栄えた福山の伝統を伝えるものである。

植原さんはこうした発想を実現させるため、旧知のふたりに声をかけた。県内で林業を営むスギモリ代表の杉森裕樹さんと鉄工会社、三暁社長の早間寛将さんだ。

「新しい発想も得られるので、時間さえあればいつでも協力したい」（杉森さん）、「SAKURASAKUの手がける仕事はいつも面白い。内容も聞かずに依頼を受けました」（早間さん）と、ふたりから快諾を得て、植原さんはさまざまな作品や装飾づくりに着手する。

「城北の間（しろきたのま）」と名付けられた冒頭の休憩所は、スギモリが伐採した竹と、かつて船の甲板に使われていた廃材を再利用。提灯櫓とともにSAKURASAKUとスギモリが協力して組み上げた。風鈴の鉄板づくりを担当したのは、鞆鍛冶（ともかじ・福山市鞆の浦に100年以上、伝わる鍛造技術）の伝統を受け継ぐ三暁。復元された鉄板張りをイメージして長方形に鍛造し、SAKURASAKUが一個一個、鉄釘と組み合わせた。

こうして完成した、北の丸広場の木製アートと「城北の間」、坂道で風になびく鉄板風鈴や広場への道案内の役割を果たす提灯櫓――。これらが見られるのは10月末までとなっている。

モノ・マガジン　2022年10月16日号に掲載

木と竹の切り出し

装飾に使用する木や竹の切り出しを担当し、組み立てにも協力したのが、地元で林業や線路の除草・伐採業務に携わる広島県三原市のスギモリだ。その彼らの作業を支えたのが、初めて手にする充電式の小型レシプロソーだった。

伐採に携わったスギモリのメンバー。代表の杉森裕樹さんは、電動レシプロソーの操作性に驚かされたという。

竹が密集した林では、充電式のレシプロソーが大活躍。コンパクトなので狭い場所でも自在に操れる。

いままではエンジンチェーンソーで切っていましたが、今回初めて電動レシプロソー使いました。軽いし、竹を切る分には作業性はよかったと思います。違和感もありませんでした。独りで作業をする場合、チェーンソーだと両手作業になるのですが、片手で少し切って倒すといった用途には最適です。これからも現場でぜひ使っていきたいですね。

充電式小型レシプロソー DRJ11XR

バランスと操作性にすぐれた18Vの充電式小型レシプロソーのフラッグシップモデル。刃の付け替えが多い作業時にはツールレスホルダー、長時間作業に適したブレードホルダー、ジグソー刃での切断にはジグソー刃用ホルダーと、3つのブレードホルダーを付属し、幅広い切断用途に対応する。速度は高・中・低の3段階切り換えが可能。価格8万6130円
※写真は別売りの「竹伐り専用の刃」を装着。

風鈴用の鉄板づくり

北の丸広場に飾られた鉄板の風鈴。この鉄板の製造を手がけたのが、鞆鍛冶の流れを受け継ぐ福山市の鉄工会社、三暁。福山城の鉄板張りを模した鉄を鍛造し、仕上げにディスクグラインダーで細部を丁寧に仕上げた。

鉄板は一枚一枚を何度も火にかけ、ハンマーで叩いてフラットに整え、成型する。仕上げにディスクグラインダーでバリを取り、角を丸める。

一般のディスクグラインダーは、複数台に番手違いの砥石を付けて使用するので、違う砥石を使うたびに電源コードを付け替えなくてはなりません。でも、「RG112」なら取り替えが1本の電源コードの脱着だけなので、次の工程へスムーズに移行できます。本体が細くてヘッド部も小さいので、握りやすく、腕への負担も少ないですね。

「築城400年という節目のイベントに、われわれの伝統技術が貢献できたことを誇りに思います」と、三暁の三代目社長である早間寛将さん。

脱着式ディスクグラインダーRG112

長時間の作業でも手の負荷を軽減する握り径52㎜の極細グリップを採用したディスクグラインダー。狭いところにも入り込めるスリムギヤヘッド、鉄粉の侵入を防ぐメッシュフィルター付き防塵フィルターを搭載。スイッチがONの本体に通電中の脱着コードを繋いでも動作しない再起動防止機能も装備する。
価格1万8590円

—福山城築城400年イベントでも活躍—

京セラのプロ向け電動工具

装飾物の組み立て

SAKURASAKUによる装飾の数々、木製アートや提灯櫓、城北の間の組み上げに活躍したのが、充電式ドライバードリルや同インパクトドライバー、そして充電式集じん丸ノコや同マルチツールといった京セラのプロ向け電動工具だった。

ドライバードリルはビスを打つときの部材の割れを防ぐ下穴開けに使いました。デッキの組み立てには、たくさんの穴をあけるので、本体のバランスの良さが結構重要ですが、このドライバードリルはよいですね！リズムよく動けるので作業がはかどりました。

今回はデッキにビスを打ち込んだり、竹を留めたりと、さまざまな場所でインパクトドライバーを使いました。僕が言うのもなんですが、使い心地はよかったですよ(笑)。とにかく軽くて小さくて使いやすい。バッテリーが薄いのもいいですね。

櫓のネジ穴あけから提灯の取り付けまで、各所で活躍したドリルドライバー。電池は高容量なので長時間作業にも対応する。

インパクトドライバーで、甲板材にビスをネジ込む。165N・mの強力なパワーによってビスは見る見ると埋まっていく。

充電式ドライバードリル DD181L5

高出力のブラシレス分割コアモーターにより、コンパクトながら最大穴あけ径35㎜のパワーを実現したドライバードリル。使用時の快適性を追求した新グリップ、片手でビットの取り付け、取り外しができるスピンドルロック機構、最適なトルクが選べる21段クラッチ、高輝度LEDライトなど、便利機能を満載。
価格7万1500円

充電式インパクトドライバー DID11XR

狭所作業を考慮して99.4㎜という18Vクラス最短のヘッドを実現した重量1.1kgの最軽量コンパクトモデル。直感的に操作できる独自のサイドボタンを採用し、ボタンを見ることなく弱・中・強・テクス・ロックオンの5つのモードに切り替えが可能。先端に影をつくらない3灯式のLEDライトを搭載する。
価格7万2600円

マルチツールは脱着部分がとくにすぐれていると思います。他社の製品とは違っていて、先端の刃物を交換するときに、余分な動作を必要とせず、ボタンひとつでロックがかかる。簡単に刃物を脱着させられるので、作業がものすごくはかどりますね。

丸ノコで対応できない場所はマルチツールにお任せ。刃が微振動しながら切り欠きができるので、細かい箇所の工作には最適。

充電式マルチツール DMT11XR

用途と対象物に合わせて先端工具(ブレード)の交換が可能なため、切断、研磨、剥離など、これ一台で幅広い作業に対応する電動工具。コンパクトかつパワフルなブラシレス分割コアモーターの搭載により、負荷のかかる作業もお手のもの。マルチツールブレード規格の最上位グレード「STARLOCK MAX」に対応する。DC18V。価格7万400円

厚い甲板材の切断なら丸ノコ一択。スムーズかつ正確に切断ができて操作性も良好。切粉の噴出方向が自由に変えられるのも嬉しい。

京セラの丸ノコって、業界ではピカイチと皆が認めています。もちろん今回使った丸ノコも精度が高くて、電子制御の部分もバッテリーについても、とくに言うことはありません。裏側のシートも剥がれなくなっていたので、以前に比べてかなり改善されたと思います。

充電式集じん兼用 丸ノコ DNW11XR

AC100V機並みのパワーによってスピーディーな切断を可能とした丸ノコ。新開発のブラシレス分割コアモーターによってコンパクトながらもハイパワーを実現し、作業負荷の小さいときは高回転モード、大きいときは高トルクモードに自動的に切り替わる。18Vクラス初の着脱可能なダストボックス付き。価格9万3500円

問京セラインダストリアルツールズ販売 ☎0570-666-787

モノ・マガジン 2022年10月16日号に掲載